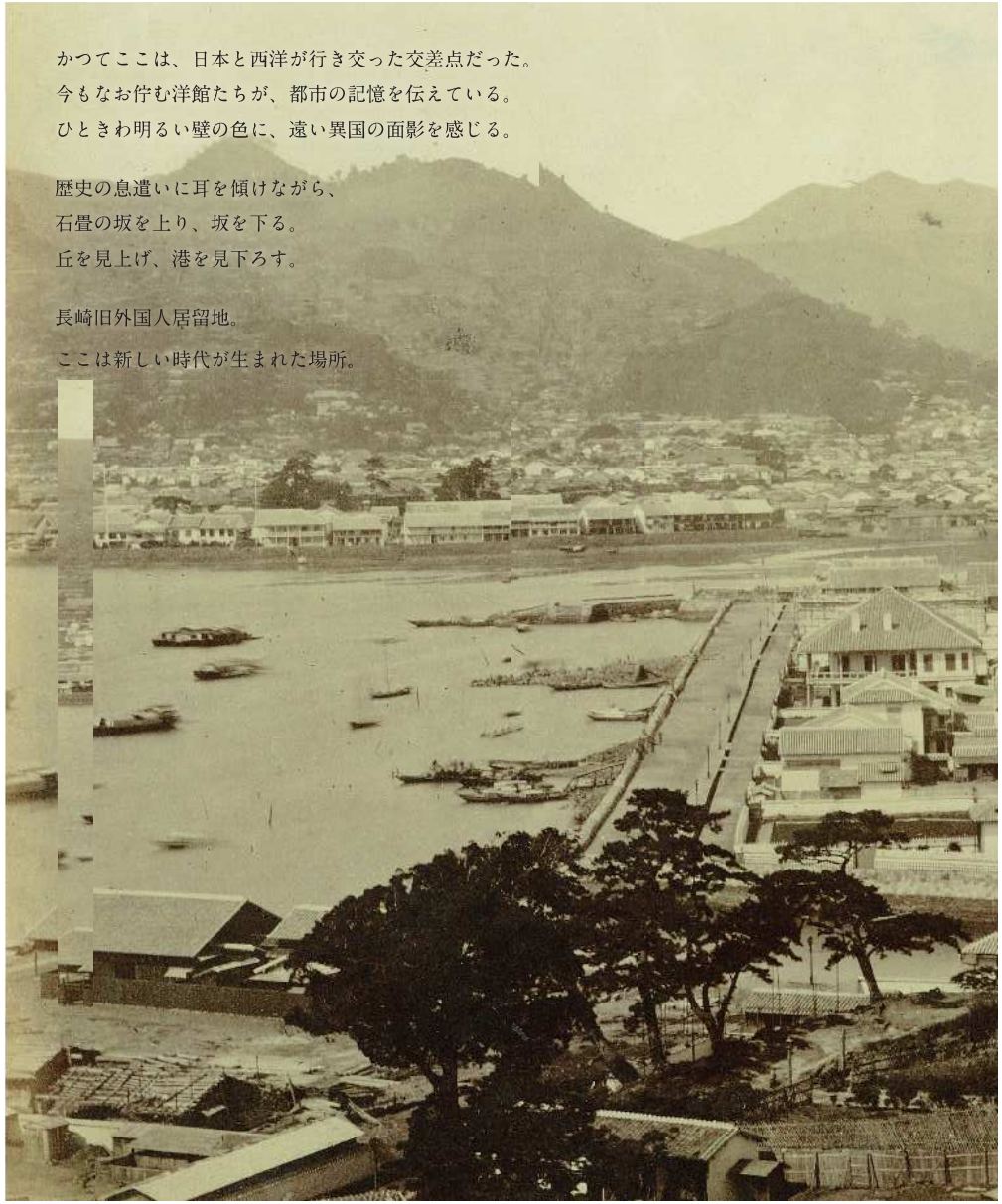
Visiting Historic Buildings in

THE FORMER NAGASAKI FOREIGN SETTLEMENT

長崎旧外国人居留地の歴史的建造物を訪ねて

NAGASAKI

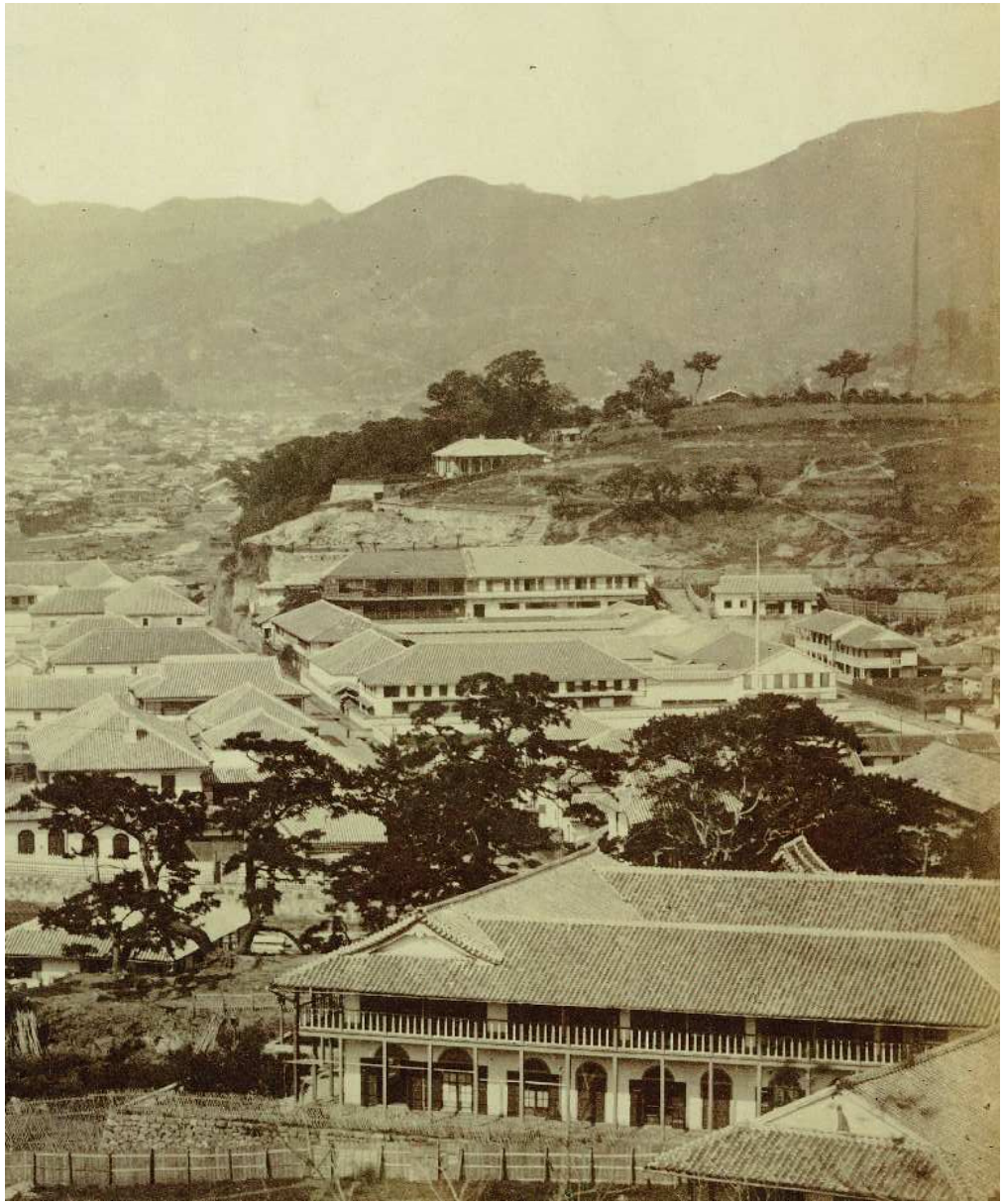
日本と西洋が出会った港町



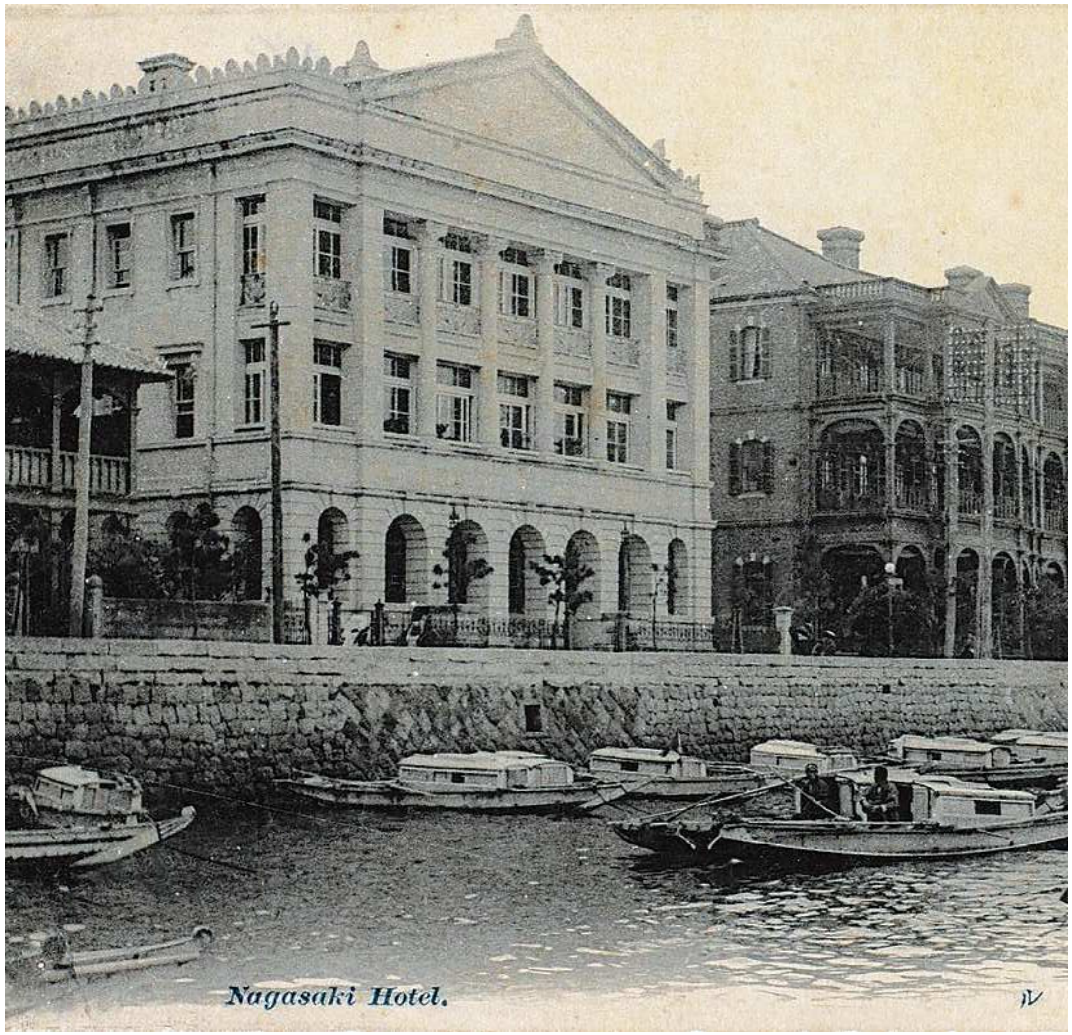
かつてここは、日本と西洋が行き交った交差点だった。
今もなお佇む洋館たちが、都市の記憶を伝えている。
ひときわ明るい壁の色に、遠い異国の面影を感じる。

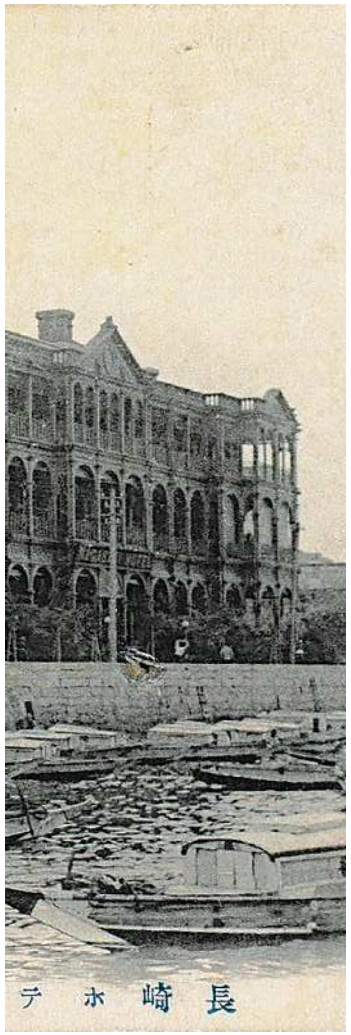
歴史の息遣いに耳を傾けながら、
石畳の坂を上り、坂を下る。
丘を見上げ、港を見下ろす。

長崎旧外国人居留地。
ここは新しい時代が生まれた場所。



南山手からの大浦居留地（長崎大学附属図書館所蔵）





香港上海銀行長崎支店と長崎ホテル（長崎歴史文化博物館収蔵）

THE NAGASAKI FOREIGN SETTLEMENT

長崎外国人居留地

長崎は16世紀後半の開港以来、諸外国との交流が展開され、江戸幕府の対外政策により海外との交流が制限された17世紀前半から19世紀前半までの約200年間、日本で唯一、西洋に開かれた貿易港でした。西洋の文化や文物、情報は長崎を通じて日本に流入し、日本の近代化に大きな役割を果たしました。

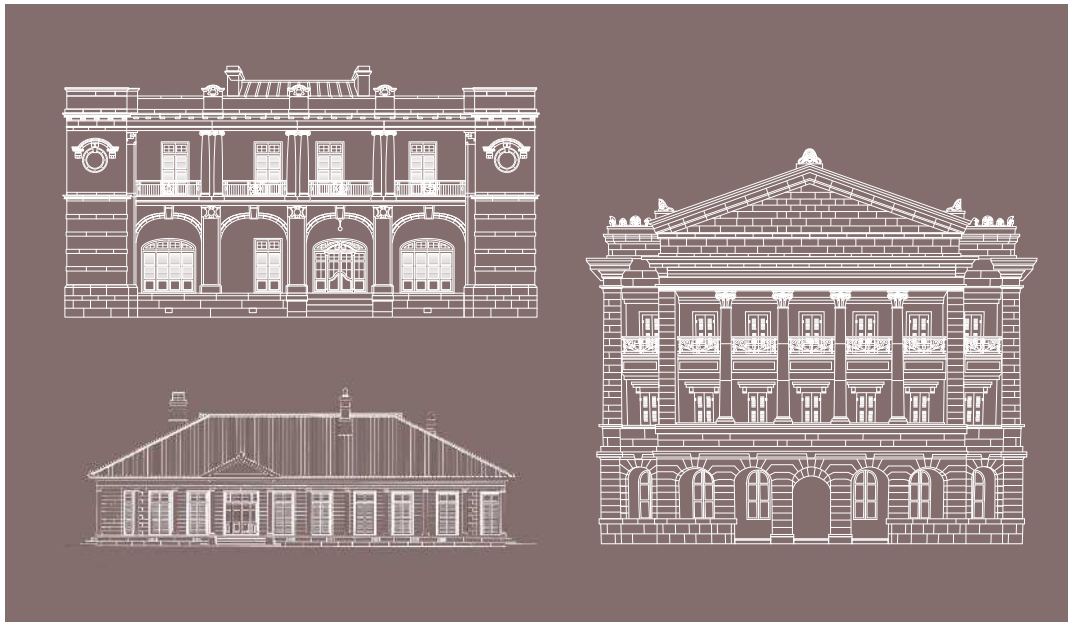
安政5年(1858)、江戸幕府はアメリカ、ロシア、オランダ、イギリス、フランスの5箇国と修好通商条約を結び、翌安政6年(1859年)、長崎は神奈川・箱館とともに新しい時代の自由貿易港として開港しました。条約では、開港場に外国人の居住区を造ることが決められたため、開港後、外交や通商などで訪れる外国人の居留地を長崎市街地の南側に位置する大浦一帯と定め、居留地の整備のため、大浦湾の海岸を埋め立て、湾を囲む東山手・南山手の丘陵を造成しました。長崎外国人居留地は、三次にわたる造成工事でほぼその全貌が整備されました。大浦一帯が開かれた後、出島や新地などが加えられ、外国人居留地は大浦、下り松、東山手、南山手、梅香崎、出島、新地、広馬場、館内で構成されました。

居留地は、海岸に近いほうから上等地、中等地、さらに山手の下等地に分けられて貸渡料が設定され、地割・地番の割り振りが行われました。外国人への土地の貸渡しは第一期造成工事が完了した万延元年(1860)以降、順次行われました。

開港後は多くの外国人がビジネスチャンスを求めて長崎に来港し、外国人居留地が完成すると次々に建物が建てられ、急速に洋風の町並みが形成されていきました。海岸に近い方の上等地には、貿易のための商館や倉庫など、その背後の中等地にはホテル・銀行・病院・娯楽施設など、さらに下等地とされた港の眺望がよい山手には、住宅・領事館などが建設され、洋風建築が建ち並ぶ町並みが広がりました。

明治32年(1899)、条約改正により居留地制度は廃止されましたが、引き続きこの地域で多くの外国人が、貿易をはじめ、様々な商業活動を展開しました。

Important Preservation Districts for Groups of Historic Buildings



重要伝統的建造物群保存地区

伝統的建造物群保存地区とは、文化財保護法により「周囲の環境と一体をなして歴史的風致を形成している伝統的な建造物群で価値の高いもの」とされる文化財です。

日本には、武家町や商家町、寺町、宿場町、港町など、我が国の歴史や文化を理解するために欠くことのできない町並みや集落があります。これらは貴重な文化遺産ですが、戦後の国土開発や経済成長に伴う無秩序な都市開発の中で伝統的な建造物が急速に姿を消し、歴史的な市街地や集落の景観が失われていきました。

そこで、昭和 50 年(1975)、文化財保護法が改正され創設されたのが「伝統的建造物群保存地区制度」です。

市町村は、伝統的建造物である建築物や工作物とともに、これと景観上密接な関係にある樹木、庭園、池、水路、石垣等を環境物件として特定します。また、これらを含む歴史的なまとまりを持つ地区を「伝統的建造物群保存地区」として決定し、その保存を図ります。

国は、市町村の申し出にもとづき、我が国にとって特に価値が高いと判断されるものを「重要伝統的建造物群保存地区」に選定し、市町村の取り組みを支援します。

重要伝統的建造物群保存地区の選定基準

伝統的建造物群保存地区を形成している区域のうち、次の基準の一つに該当するもの。

1. 伝統的建造物群が全体として意匠的に優秀なもの。
2. 伝統的建造物群及び地割がよく旧態を保持しているもの。
3. 伝統的建造物群及びその周囲の環境が地域的特色を顕著に示しているもの。

長崎外国人居留地の建造物の特徴

明治中期には外国人居留地を中心に約 800 棟余りあったといわれる長崎の洋風建築は、居留地制度の廃止や時代の流れとともに失われてきました。

しかしながら、東山手、南山手地区は、今日においても、居留地の地割を示す歴史的風致とともに、幕末から明治にかけて建てられた洋風建築、石畳の道路、石段、側溝、樹木などが一体となって、当時の面影をとどめています。特に居留地初期の洋風建築が数多く現存していることが特徴で、東山手・南山手地区は、日本において居留地初期の歴史的景観を良好に残している唯一の地区といえます。

長崎の洋風建築の特徴は、煙突が載った瓦屋根といった和洋折衷様式であること、港への眺望を楽しむために設けられたベランダやベイウィンドウ（張り出し窓）の設えがあります。大規模な住宅や小規模な住宅、教会、領事館、銀行、税関、学校、工場、木造建築以外にも煉瓦造や石造など、用途や材料、構造が多様であり、優れたデザインの建物が多いことも特徴です。

長崎市は、平成 2 年(1990)に居留地時代の町並みを残す東山手、南山手の地域を伝統的建造物群保存地区として指定し、歴史的な建造物の保存整備や公有化に努め、その公開活用を図っています。平成 3 年(1991)には、国の重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けました。

現在、洋館所有者の方々をはじめとする地域の住民のみなさんを中心に町並み保存会が組織され、歴史的町並みの保存に向けた様々な取り組みが行われています。

重要伝統的建造物群保存地区
東山手伝統的建造物群保存地区

石畳の坂道と洋風住宅の遺る歴史的町並み

東山手の居留地は、大浦の商館と港を見下ろす高台に位置し、ポルトガルやアメリカ等の領事館や礼拝堂が建ち、当時は領事館の丘とも呼ばれていました。その後、これらの跡地に、宣教師らによって建てられたミッション系の学校が増えて、現在に至っています。

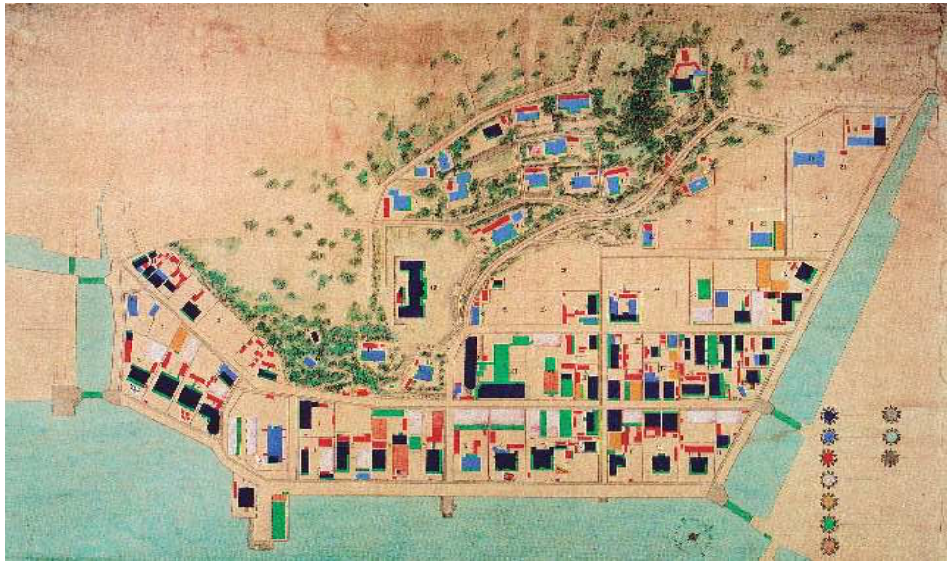
これらの居留地の建物と工作物などが一体となって歴史的な町並みを形成する範囲として丘陵の東山手町の大部分と、海岸寄りの大浦町を一部含む区域を保存地区の範囲としています。

地区内の建造物は、桟瓦葺き、外壁は下見板張り（横長の板をすこしずつ重なり合うように張った外壁）にペンキで着色したものが多く、海の方向に開放的なベランダを付け、主要な部屋を配置しています。主要な建造物としては、国指定重要文化財の東山手十二番館、旧長崎英国領事館などがあります。

この他、オランダ坂の石畳の道と石垣や、石溝、居留地の境界や地番を示す石標類など、居留地時代を偲ばせる土木構造物や大きな樹木などが数多く残っています。

東山手の町並みは、居留地の地割を示す歴史的な町並みとともに、洋風建築をよく残しており、価値が高いものです。

DATA
- ■文化財種別：国選定重要伝統的建造物群保存地区（港町）
- ■選定年月日：平成３年(1991)４月 30 日
- ■選 定 地 区：長崎市東山手町、大浦町の一部　約 7.5ha
- ■選 定 基 準：伝統的建造物群及び地割がよく旧態を保持しているもの



東山手居留地図（明治 10 年代）（長崎歴史文化博物館収蔵）

保存地区の範囲
伝統的建造物

近代日本外交史の一端を示す領事館建築

旧長崎英国領事館 MAP ①

安政５年(1858)、５箇国との修好通商条約が結ばれた後、長崎は開港場として自由貿易を開始し、外交事務が始められました。長崎の英国領事館は、開国後、まだ居留地が造成される前から大浦の妙行寺に仮住まいをして外交事務を行っていました。その後、東山手の丘へ移り、さらに現在地へ移転しました。この建物は、上海のイギリス人技師ウィリアム・コーワンの設計に基づいて、長崎の後藤亀太郎が施工して、各国の商館が立ち並ぶ「大浦バンド」と呼ばれた海岸通りに、居留地制度廃止後の明治 41 年(1908)に完成しました。

主屋は煉瓦造の２階建で、１・２階ともに正面・両側面の３面にベランダを設け、２階ベランダには重厚なイオニア式の柱を配しています。正面両端の外壁にあけられた丸窓や、１階両側壁面やアーチ部分に花崗岩を入れてアクセントをつけるなど、正面性を意識したデザインがなされています。本館・附属屋・職員住宅をはじめ、門・塀にいたるまで敷地全体にわたり、建築当時の状態をよく保っているとともに、設計図や仕様書なども残されています。明治後半期（20 世紀初頭前後）の洋館として、造形・意匠の面から貴重なもので、近代日本外交史の一端を示す資料としても高い価値を持ちます。

1 2 [1] 海に面して建つ煉瓦造りの建物。２階ベランダの柱と丸窓が特徴的。
[2] 職員住宅など、敷地全体にわたり往時の姿を見ることができる。

DATA
■文化財種別：国指定重要文化財
■指定年月日：平成２年(1990)３月 19 日
■所　在　地：長崎市大浦町 1-37
■建　築　年：明治 41 年(1908)
■構　　造：煉瓦造２階建

INFORMATION
※保存修理中のため見学不可
（2025 年完了予定）

地番（甲十三番）が記された石標。

東山手の入口に建つ賃貸住宅

東山手甲十三番館 MAP ②

この建物は、賃貸住宅として建てられました。敷地の造成が明治 25 年(1892)以降に行われ、建物は明治 27 年(1894)頃までに建築されたと推定されています。初代の入居者は香港上海銀行長崎支店初代支店長のイギリス人Ａ・Ｂ・アンダーソンです。

洋風貸家の中では規模が大きく、建物は、敷地の形態に合わせ、主屋と附属屋を一列に並べた配置になっています。居室は１・２階とも３部屋に分かれ、いずれもマントルピースが設けられています。１・２階とも南西全面にベランダを設けているのが特徴です。敷地内にはカナリーヤシや石垣・石塀などがあり、歴史的な面影をとどめています。

DATA
■文化財種別：国登録有形文化財
■登録年月日：平成 19 年(2007)12 月５日
■所　在　地：長崎市東山手町 3-1
■建　築　年：明治 27 年(1894)頃
■構　　造：木造２階建

INFORMATION
○カフェとして活用中
開館時間　10：00 ～ 17：00
入 館 料　無料

東山手地区最古の洋風建築

東山手十二番館 MAP ③

この建物は、明治元年(1868)の建設と推定される長崎居留地初期の洋風建築の代表例で、東山手地区では最も古い洋風建築です。この建物が建てられる直前まではプロシア領事館があり、新築後はロシア領事館となっていたことが分かっています。その後、アメリカ領事館や宣教師の住宅などとして使用されました。

建物は正面側の３面に及ぶ幅広のベランダをもつ主屋と、背後の附属屋および別棟から成り、中央部に広い廊下を配して両側に部屋を配置した平面構成は、当時の領事館建築の特徴をよく示しています。外壁の下見板張りは、日本国内では最も古い事例です。

全体的には簡素な造りですが、全面吹き放ち※とした床下の造りや、ベランダ列柱上部の円弧形の刳り抜き装飾をもつ板状の持ち送り※など、珍しい特徴を持ちます。

※吹き放ち…柱だけで壁がない空間のこと。
※持ち送り…建物の梁（はり）などの水平部材や、庇（ひさし）など張り出した部分を支えるために、壁や柱などに取り付ける補強材。装飾が施されることが多い。

1 2 [1] 持ち送り…建物の規模に比べて小さく、円弧形のくりぬき装飾を持つ。
[2] マントルピース…暖炉の飾り棚であるマントルピースは大理石で作られている。

DATA
■文化財種別：国指定重要文化財
■指定年月日：平成 10 年(1998)12 月 25 日
■所　在　地：長崎市東山手町 3-7
■建　築　年：明治元年(1868)(推定)
■構　　造：木造平屋建

INFORMATION
○旧居留地私学歴史資料館
開館時間　9：00 ～ 17：00
入 館 料　無料

キリスト教精神に基づく日本の女子教育の草分け

活水学院　本館　MAP ④

活水学院は、明治 12 年(1879)にアメリカ人宣教師エリザベス・ラッセルによって女子教育のための学校として創立されました。現校舎は前身建物のラッセル館の跡地に大正 15 年(1926)に建設され、昭和８年(1933)に増築されました。

建物は八角形のホールを中心に南西・南東・北西の３方向に伸びる翼部で構成されています。この八角形のホールは、ノルマン様式建築の塔を連想させる意匠で、平面の中心であると同時に、立面構成上のアクセントとなっています。居留地時代の建物ではありませんが、ドーマー窓（屋根窓）を配した急勾配の赤い切妻屋根は南山手からも確認することができる、東山手地区のシンボル的な建物です。

DATA
■所　在　地：長崎市東山手町 1-50
■建　築　年：大正 15 年(1926)
■構　　造：鉄筋コンクリート造４階建

INFORMATION
非公開施設（見学には許可が必要です。）

港への眺望を最優先した洋風住宅

活水同窓会館　MAP ⑤

萌黄色のペイント塗りで、正面には半八角形と半円形のベイウィンドウを設けた変化に富んだ外観を持つ、明治時代後期の木造２階建の住宅です。広い前庭を持ち、正面と南側には幅広いベランダがあります。ベランダに面する居室は西日が差しこみますが、全面に窓を設け、港への眺望を最優先にしています。

DATA
■所　在　地：長崎市東山手町 3-7
■建　築　年：明治 35 年(1902)以降
■構　　造：木造２階建

INFORMATION
非公開施設（見学には許可が必要です。）

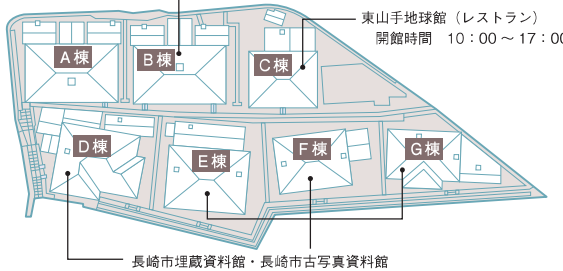
そっくりな７つ子　でもよく見ると個性が…

東山手洋風住宅群（７棟）　MAP ⑥

この７棟の洋風住宅群は、明治 20 年代後半(1897 年前後)にまとめて建設されました。敷地は、西向きの急斜面地を上下２段に分けて造成しており、狭い土地に７棟もの建物が建つため、居留地内の他の宅地に比べ、建物が密集しています。７棟の建物は、全般的に共通点が多いですが、特徴としては、内側・外側ともに質素に作られており、欄間などに中国風の意匠が見られるなど擬洋風建築であること、構造材料が各棟ほぼ同一であること、特に上段２棟は平面・立面ともに構造がよく似ていることなどが挙げられます。これらのことから、社宅または賃貸住宅として計画的に建設されたことが推定できます。

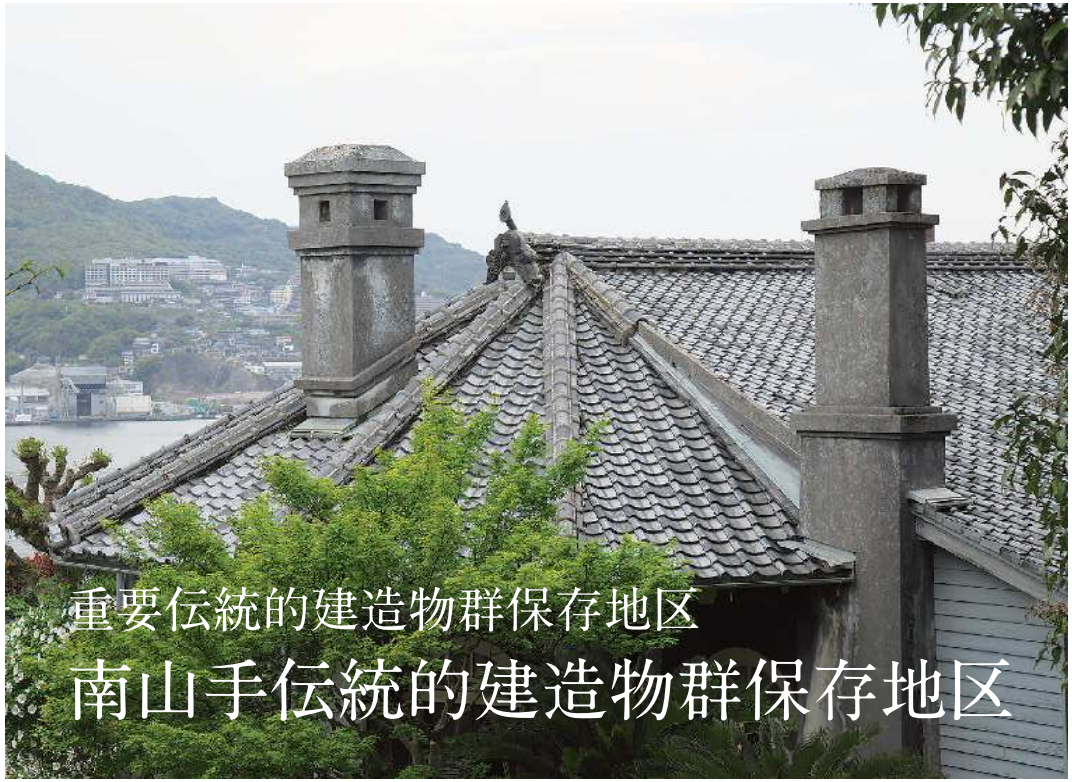
このような用途の住宅建物が一箇所に集まって残存することは全国的に類例がなく、また、東山手の景観上特殊で貴重なものです。

INFORMATION



1 [1] 唐草模様のスパンドレル（柱間）。特徴的な植物模様の透かし彫りが見られる。
2 [2] ねずみ色の漆喰の外壁。

DATA
■文化財種別：長崎市指定有形文化財
■指定年月日：平成元年(1989) 9 月 4 日
■所　在　地：長崎市東山手町 6-25 ほか
■建　築　年：明治 20 年代後半
(1897 年前後)
■構　　造：A ～ C 棟　木造２階建
D ～ G 棟　木造平屋建



重要伝統的建造物群保存地区
南山手伝統的建造物群保存地区

２つの世界遺産の構成資産がある歴史的町並み

南山手地区は、居留地で主として住宅地として使われていた区域です。長崎港を見下ろす、眺めのよい丘の上にあります。

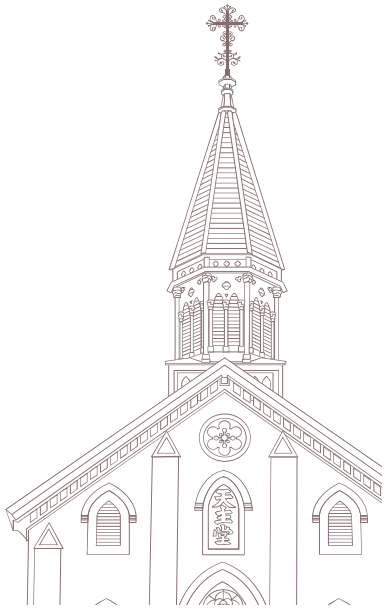
主として居留地の頃に建てられた建物と工作物などが一体となって歴史的な町並みを形成する範囲として丘陵の南山手町の大部分と、海岸寄りの小曽根町、松が枝町を一部含む地域を保存地区の範囲としています。

南山手の北寄りには、大浦天主堂、旧羅典神学校があり、その南には、居留地初期の洋風住宅として、旧グラバー住宅をはじめ、旧リンガー住宅、旧オルト住宅が現存しています。松が枝町では、旧香港上海銀行長崎支店や旧長崎税関下り松派出所などが港に面して建っています。これらの代表的建物は、国宝や国の重要文化財に指定されています。また、これらの歴史的建造物のうち、大浦天主堂と旧グラバー住宅は、世界文化遺産の構成資産となっています。

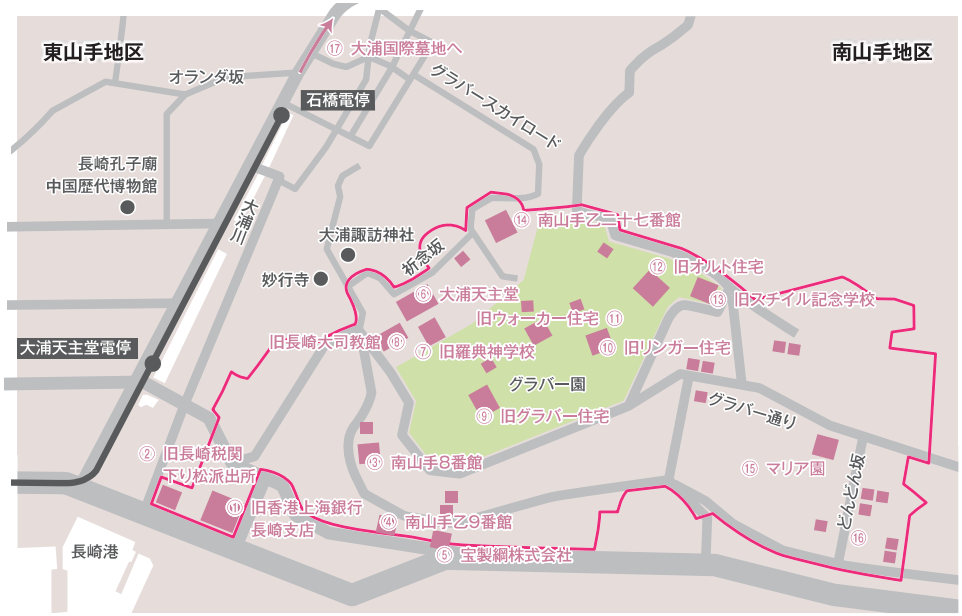
地区の中心から南側は、現在も静かな住宅地で、明治の初めから中頃にかけての洋風住宅建築がよく残されています。

南山手の町並みは、居留地の地割を示す歴史的な町並みとともに、居留地初期の洋風住宅などをよく残しており、価値が高いものです。

DATA
- ■文化財種別：国選定重要伝統的建造物群保存地区（港町）
- ■選定年月日：平成３年(1991)４月30日
- ■選 定 地 区：長崎市南山手町、松が枝町、小曽根町の各一部　約17ha
- ■選 定 基 準：伝統的建造物群及び地割がよく旧態を保持しているもの



南山手居留地図（明治 10 年代）（長崎歴史文化博物館収蔵）



1 2 3

1 長崎港に面して建つ威厳ある正面。
2 側面は石造に見せる工夫がなされている。
3 銀行時代に使われていたカウンターが残る。

長崎市内最大級の洋風建築　MAP ①

旧香港上海銀行長崎支店

香港上海銀行は、横浜、神戸支店に続いて明治 29 年(1896)に長崎支店を開設しました。外国銀行の長崎支店第一号です。この建物は、19 世紀後半から 20 世紀前半にかけて日本の国内外で活躍した異色の建築家、下田菊太郎が設計した建物で、明治 37 年(1904)に完成した、長崎市の洋風建築の中では最大級の建物です。

1 階部分を連続アーチのアーケードとして、2・3 階部分にコリント式の円柱を通した大オーダーとし、その上に三角破風の屋根をのせるなど、海側の正面性を重視したデザインとなっています。正面の吹き放ち部分は石造で、これより後方は煉瓦造、外壁は下部を石張り、上部をモルタルで仕上げ、全体を石造風に見せています。

重厚で端正な外観のこの建物は、旧外国人居留地の海岸通りや南山手地区の景観を保つうえでの重要な要素になっています。

DATA
■文化財種別：国指定重要文化財
■指定年月日：平成 2 年(1990) 3 月 19 日
■所　在　地：長崎市松が枝町 4-27
■建　築　年：明治 37 年(1904)
■構　　造：石造・煉瓦造 3 階建

INFORMATION
○長崎市旧香港上海銀行長崎支店記念館
長崎近代交流史と孫文・梅屋庄吉ミュージアム
開館時間　9：00 ～ 17：00
入 場 料　一般 300 円　小・中学生 150 円　団体割引あり

明治期の税関施設の状況を伝える　MAP ②

旧長崎税関下り松派出所

長崎港は江戸時代(1603 ～ 1867)にも外国との窓口として開かれていましたが、開港後も貿易港として重要な位置を占め、税関が置かれました。

この派出所の建物は明治 31 年(1898)に新築されました。庁舎は煉瓦造り、平屋建で、正面の両端に三角破風を見せ、中央部にはアーチ型の出入り口を開くなど、海側の正面性を重視した建物です。全面中央部には広い土間の検査場があり、その周囲に倉庫・事務所等が配置されています。

小規模ですがよくまとまった建物で、敷地を囲む煉瓦塀など、明治時代の税関施設の状況をよく伝えています。資料的価値が高いだけでなく、海岸沿いに建つ建物として、景観上も重要な役割を果たしています。

DATA
■文化財種別：国指定重要文化財
■指定年月日：平成 2 年(1990) 3 月 19 日
■所　在　地：長崎市松が枝町 4-33
■建　築　年：明治 31 年(1898)
■構　　造：煉瓦造平屋建

INFORMATION
○長崎市べっ甲工芸館
開館時間　9：00 ～ 17：00
入 館 料　一般 100 円　小・中学生 50 円　団体割引あり

内装･外観ともに質の高い洋風住宅　MAP ③

南山手 8 番館

南山手 12 番地の敷地に建っていたこの建物は、昭和 63 年(1988)に解体されることになり、町並み保存のために長崎市が寄贈を受け、現在の場所に移築復元しました。明治時代中期に、イギリス人ウィルソン・ウォーカーが建てた住宅で、1、2 階とも正面に中央部が突出したベランダを設け、ベランダに面した居室の側面にはベイ・ウィンドウを用いるなど、内装、外観ともに質の高い建物です。

ウィルソン・ウォーカーは、明治 18 年(1885)に日本郵船会社(NYK) を設立、また、明治 22 年(1889)から明治 26 年(1893)にかけて「ジャパン・ブルワリ・カンパニー（麒麟麦酒株式会社の前身）」の支配人として活躍するなど、トーマス・ブレーク・グラバーと並び、明治の日本経済に大きな貢献をしました。

DATA
■所　在　地：長崎市南山手町 4-33
■建　築　年：明治 31 年(1898)～明治 35 年(1902)の間
■構　　造：木造 2 階建

INFORMATION
○長崎市南山手地区町並み保存センター
開館時間　9：00 ～ 17：00
入 館 料　無料

ロシア人が建てた洋風住宅　MAP ④

南山手乙 9 番館

戦艦の薪水供給や港湾で働く人たちのあっせんなどを営んでいたロシア人の G･ナパルコフにより明治 16 年(1883)に建てられました。木造 2 階建で、各階にベランダを持ち、屋根には、明治期の洋風建築物の特徴といえるマントルピースの煙突がそびえ立っています。

DATA
■所　在　地：長崎市南山手町 3-17
■建　築　年：明治 16 年(1883)
■構　　造：木造 2 階建

INFORMATION
○長崎市須加五々道美術館
開館時間　9：00 ～ 17：00
入 館 料　一般 100 円　小・中学生 50 円　団体割引あり

旧外国人居留地に残る工場建築　MAP ⑤

宝製綱株式会社

煉瓦造り 2 階建の工場建築で、かつて 1 階の窓のアーチに「1902」という年号が記されてあり、それが建築年代と思われます。居留地時代、この建物が建つ下り松地区から小曽根町にかけては造船所などが建てられ、工場地区を形成していました。この建物は、現在も工場として活用されており、一帯では現在も造船所が操業を続けています。

DATA
■所　在　地：長崎市小曽根町 1-39
■建　築　年：明治 35 年(1902)（推定）
■構　　造：煉瓦造 2 階建

INFORMATION
非公開施設

1 2 3

1 フランス人宣教師たちは、禁教下においても日本人の信者が存在する可能性を信じ、教会の正面に日本語で「天主堂」と掲げた。
2 3「こうもり天井」とも呼ばれるリブ・ヴォールト天井やステンドグラス、木彫装飾等ゴシック様式で統一されている。

日本に現存する最古の教会堂

国宝　大浦天主堂 MAP ⑥

この教会堂は、居留地の外国人のために建設されたもので、日本に現存する最古の教会堂です。直前に列聖されたばかりの「日本二十六聖殉教者」に捧げられました。設計指導はフランス人宣教師のルイ・フューレ、ベルナール・プティジャンの両神父で、施工は天草（現在の熊本県）の小山秀。元治元年(1864)末に竣工し、翌年２月に祝別されました。この直後の３月に、浦上の潜伏キリシタンがこの地に訪れ信仰の告白をしたことにより、世界の宗教史上にも類をみない劇的な「信徒発見」の舞台となりました。

大浦天主堂の境内は、パリ外国宣教会から派遣された神父たちの活動拠点で、日本人神父や伝道師を養成する神学校、伝道師学校が設置され、日本におけるキリスト教再布教の拠点となった場所です。

教会堂は明治８年(1875)と明治12年(1879)の増改築により、平面形式と外観デザインが変容し、外壁も木造から煉瓦造に変更されました。しかし、内部空間の主要部には創建当初の姿が残されています。

大浦天主堂は、平成30年(2018)に世界文化遺産に登録された「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産となっています。

DATA
■文化財種別：国宝
■指定年月日：昭和28年(1953)３月31日
■所　在　地：長崎市南山手町5-3
■建　築　年：元治元年(1864)
■構　　造：５廊式教会堂

INFORMATION
拝観時間　8：00～18：00
拝 観 料　一般1,000円　中・高生400円　小学生300円
団体割引あり

マルク･マリー･ド･ロ神父最初期の作

旧羅典神学校 MAP ⑦

明治６年(1873)の明治政府のキリスト教禁教令廃止を契機に、大浦天主堂のプティジャン神父は日本人司祭を養成するために羅典神学校設立を計画し、明治８年(1875)に完成しました。大正15年(1926)に浦上神学校ができるまでは、神学校の校舎兼宿舎として使用されました。白い壁と黒塗りの柱のコントラストが特徴的です。

設計は明治元年(1868)に来日したフランス人のマルク・マリー・ド・ロ神父が行いました。地上３階地下１階、構造は、骨組は木造で壁に煉瓦を積む特殊なものですが、ド・ロ神父は建築技術に造詣が深く、その設計監督した建物は極めて堅牢であるのが特徴です。ド・ロ神父は、大浦天主堂内司祭館（現、旧長崎大司教館）や長崎市北部の外海地区にある出津教会堂等、数多くの建物を遺しています。

DATA
■文化財種別：国指定重要文化財
■指定年月日：昭和47年(1972)５月15日
■所　在　地：長崎市南山手町5-3　大浦天主堂敷地内
■建　築　年：明治８年(1875)
■構　　造：木骨煉瓦造３階建、一部地階

INFORMATION
○大浦天主堂キリシタン博物館
開館時間　8：00～18：00
入 館 料　大浦天主堂拝観料に込み

マルク･マリー･ド･ロ神父晩年の作

旧長崎大司教館 MAP ⑧

DATA
■文化財種別：長崎県指定有形文化財
■指定年月日：平成23年(2011)３月４日
■所　在　地：長崎市南山手町5-3　大浦天主堂敷地内
■建　築　年：大正４年(1915)
■構　　造：煉瓦造３階建、一部地階

大浦天主堂に先立って建設された初代の司祭館を建て替えた建物です。設計は晩年のマルク・マリー・ド・ロ神父、施工は教会建設で有名な鉄川与助が担当し、大正４年(1915)に竣工しました。

建物は、傾斜地を巧みに利用した一部地下１階を持つ地上３階建で、構造は煉瓦造を主体に木造を加味しています。道路側の北面は地上から屋根上まで達する煉瓦壁を立ち上げ、他の３面には外周に幅広のベランダを巡らしています。中廊下型の明快な平面と、質実で古典様式にもとづく端正な造形が特徴的で、神父の最初期作の旧羅典神学校と並んで建つ姿も貴重です。

日本に現存する最古の木造洋風住宅

旧グラバー住宅 MAP ⑨

DATA
■文化財種別：国指定重要文化財
■指定年月日：昭和 36 年(1961) 6 月 7 日
■所　在　地：長崎市南山手町 8-1　グラバー園内
■建　築　年：文久 3 年(1863)
■構　　造：木造平屋建

INFORMATION
○グラバー園
開館時間　8：00 ～ 18：00（夜間開園時は最長 21：00 まで）
入 場 料　大人 610 円　高校生 300 円　小・中学生 180 円
団体割引あり

安政 6 年(1859) に長崎へ来た、スコットランド出身の商人トーマス・ブレーク・グラバーが文久 3 年(1863) に建てた、日本に現存する最古の木造洋風住宅です。グラバーは来港当初、住まいを転々と変えましたが、景色が美しいこの地に落ち着きます。グラバーは貿易商社グラバー商会を設立、この建物は居住やビジネス、文化交流の場として使用されました。建物の平面形態は、当初 L 字型でしたが、増築や模様替えが行われ、明治の中期には、ほぼ現在のクローバーに似た形となりました。

グラバーは、造船・炭鉱・鉄道等の新しい技術を日本にもたらし、日本の近代文明の進展に貢献しました。また、江戸時代の政治機構を廃止し、新しい政府の設立を目指した藩（薩摩藩、長州藩、土佐藩）を支援することで、明治時代に向けての政治的な改革の推進に大きな役割を果たしました。その活動拠点にもなった旧グラバー住宅は、平成 27 年(2015) に世界文化遺産に登録された「明治日本の産業革命遺産　製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産の一つです。

1 2

1 当初、庭に大きな松の木があり、グラバーは自宅を「一本松(IPPONMATSU)」とも呼んだ。
2 旧グラバー住宅から稲佐山方面を臨む。広い庭園の先には、グラバーが愛した長崎の美しい港の風景がある。

広いベランダは、アジアの高温多湿気候に耐えるべく採用された、居留地時代の洋風住宅の特徴。

長崎港を望む瀟洒な洋風住宅

旧リンガー住宅 MAP ⑩

この建物は、明治元年(1868) 頃に建てられました。明治 7 年(1874) にイギリス人のフレデリック・リンガーが取得し、明治 16 年(1883) 頃から自宅として使用しました。

建物は木造で外壁は石造、平屋建で屋根は桟瓦葺きです。正面中央が出入り口で、中廊下の左右に各部屋を配置しています。3 面に角石の柱を配した吹き放ちのベランダを設け、玄関ホール南側の食堂と北側の応接室の全面をベイウィンドウとしており、長崎港を眺めることができます。リンガーは、はじめはグラバー商会で働いていましたが、明治元年(1868)、29 歳の時にイギリス人のホームとホーム・リンガー商会を設立しました。ホーム・リンガー商会は、昭和 15 年(1940) の閉鎖までの約 70 年間、外国貿易や商社代理店、お茶の加工、ガス等幅広い事業を展開し、長崎の産業や経済に大きな功績を遺しました。

DATA
■文化財種別：国指定重要文化財
■指定年月日：昭和 41 年(1966) 6 月 11 日
■所　在　地：長崎市南山手町 8-1　グラバー園内
■建　築　年：明治元年(1868) 頃
■構　　造：木骨石造平屋建

特徴的なベイウィンドウを持つ
小規模な洋風住宅 MAP ⑪

旧ウォーカー住宅

ウォーカー商会を設立したイギリス人ロバート・ニール・ウォーカー Jr. の旧邸で、明治中期に建てられた木造平屋建の小規模な住宅です。もとは大浦天主堂のそばの南山手 26 番 A の敷地に建てられていましたが、現在は後の改造された姿でグラバー園内に移築されています。平面形式は中廊下型で、東側と西側にそれぞれ 2 室が配され、北側にポーチを兼ねたベランダがあります。西側の 2 室には半八角形と四角形のベイウィンドウがあります。

DATA
■所　在　地：長崎市南山手町 8-1　グラバー園内
■建　築　年：明治 31 年(1898)
～明治 35 年(1902) の間
■構　　造：木造平屋建

威風堂々たる居留地初期の洋風住宅

旧オルト住宅 MAP ⑫

この建物は、慶応元年(1865)に建てられたと考えられます。居留地初期に建てられた洋風建築の中では規模が大きく、格調も高い建物です。主屋は木骨石造の桟瓦葺きで、北・西・南面に石敷のベランダを廻しています。彫溝がなく柱間が大きいトスカーナ風列柱のベランダの中央に、切妻屋根のペディメントを上部に持つポーチがあり、軒高が高い、威厳のある姿です。イギリス人の設計と思われる平面図が遺っています。

イギリス人のオルトは日本茶の輸出で莫大な利益を得、自らも日本茶の製造工場を経営しました。オルトが退去した後は、活水女学校が明治15年(1882)まで仮校舎として使用し、のちにフレデリック・リンガーの長男が昭和15年(1940)2月に56歳で亡くなるまで、この邸宅に住んでいました。

車で直接乗り付けられるように設置されたポーチと家の前の噴水。

DATA
■文化財種別：国指定重要文化財
■指定年月日：昭和47年(1972)5月15日
■所　在　地：長崎市南山手町8-1　グラバー園内
■建　築　年：慶応元年(1865)(推定)
■構　　造：木骨石造平屋建

居留地時代の学校建築 MAP ⑬

旧スチイル記念学校

この建物は、明治20年(1887)、アメリカのダッチ・レフォームド教会外国伝導局長スチイル博士が、早世した息子ヘンリーを記念するために寄贈した資金により開設された「スチイル記念学校」の校舎です。東山手の英国領事館跡に建っていましたが、昭和48年(1973)に南山手の現在地へ移築、復元しました。建物は木造2階、入口を突出させ、その部分のみを3階建てとしているのが特徴です。

DATA
■所　在　地：長崎市南山手町8-1　グラバー園内
■建　築　年：明治20年(1887)
■構　　造：木造2階建、一部3階有り

重厚感のある石造の洋風住宅 MAP ⑭

南山手乙二十七番館

元治元年(1864)から慶応元年(1865)頃に建てられたと推測される、居留地初期の洋風住宅で、正面を長崎港に面した北側に向けています。外壁に砂岩系の石材を用いた石造で、重厚感のある居留地初期洋風住宅の容姿を示しています。テラスに木柱と石柱を併用しているのが他にみられない特徴です。

DATA
■所　在　地：長崎市南山手町7-5
■建　築　年：元治元年(1864)から慶応元年(1865)頃
■構　　造：石造平屋建

INFORMATION
○南山手レストハウス（休憩所）
開館時間　9：00～17：00
入 館 料　無料

南山手の景観上、重要な建物

マリア園 MAP ⑮

南山手の閑静な住宅地に建つ煉瓦造3階建ての建物で、ロマネスク様式の連続したアーチのデザインが壮麗です。正面右側に礼拝堂があり、チャペル内部もロマネスクの美しい構成です。フランス人修道士ヨゼフ・セネンツの設計により明治31年(1898)に完成しました。南山手の景観の中で大きなポイントとなるマリア園は、周辺の環境物件とともに、非常に重要な存在です。

DATA
■所　在　地：長崎市南山手町12-17
■建　築　年：明治31年(1898)
■構　　造：煉瓦造3階建

INFORMATION
耐震補強工事後、ホテルに改装予定。

どんどん坂 MAP ⑯

映画や写真の撮影でも人気が高いこの坂沿いには、明治中期の洋風住宅が建ち並び、現在も住宅として使われています。居留地時代の石畳や側溝もよく残されており、歩くとタイムスリップしたような気分になれるかもしれません。

居留地に暮らした外国人が眠る

大浦国際墓地 MAP ⑰

文久元年(1861)、外国人居留地のイギリス領事の要請により、長崎在住の外国人の埋葬地として、居留地に隣接する川上町に開設されました。

埋葬者はおもに長崎港に停泊中、航海中に亡くなった艦船の水夫ですが、長崎で生活し、功績を残した外国人も多く眠っています。

DATA & IMFORMATION
■所　在　地：長崎市川上町
■開 場 時 間：8：00～18：00

文化庁
Agency for Cultural Affairs,
Government of Japan

文化遺産総合活用推進事業
（日本の歴史・伝統文化情報発信事業）

発行　長崎市文化観光部文化財課
〒850-8685 長崎市桜町 2 番 22 号
長崎市公式観光サイト　https://www.at-nagasaki.jp/